

夏秋どりいちご「なつおとめ」の栽培技術の確立

要約

「なつおとめ」の高設栽培において、クラウン部冷却やベット気化冷却等の暑熱対策を行うことにより、生育及び着果数に効果が見られ、連続収穫となった。ハンモック式ベットの夜間地温は、概ね 25℃以下になることが分かった。

○ 展示のねらい

夏秋いちご「なつおとめ」の栽培は、夏期の高温の影響を受けやすく、収量が不安定になりやすい。安定生産を図るため、クラウン部冷却等の暑熱対策技術を実証する。

○ 主な成果

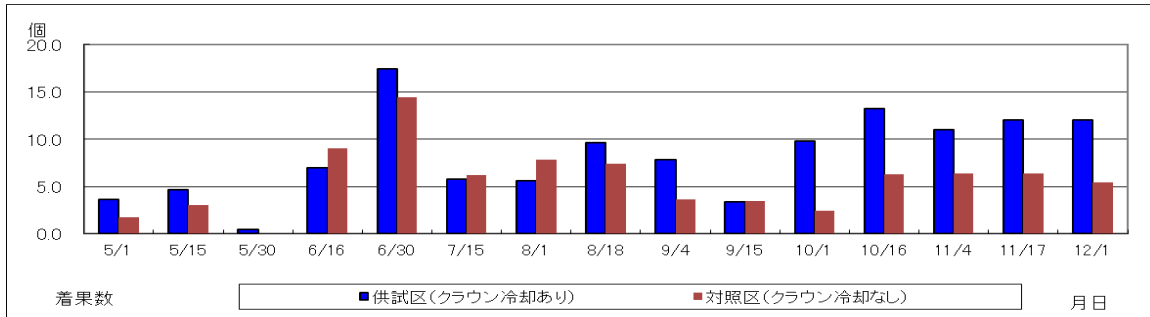


図1 着果数

クラウン部冷却やベット気化冷却を7月10日から9月10日（処理時間6時～18時）まで実施することにより、草勢及び着果が8月以降も安定した。〈図1〉

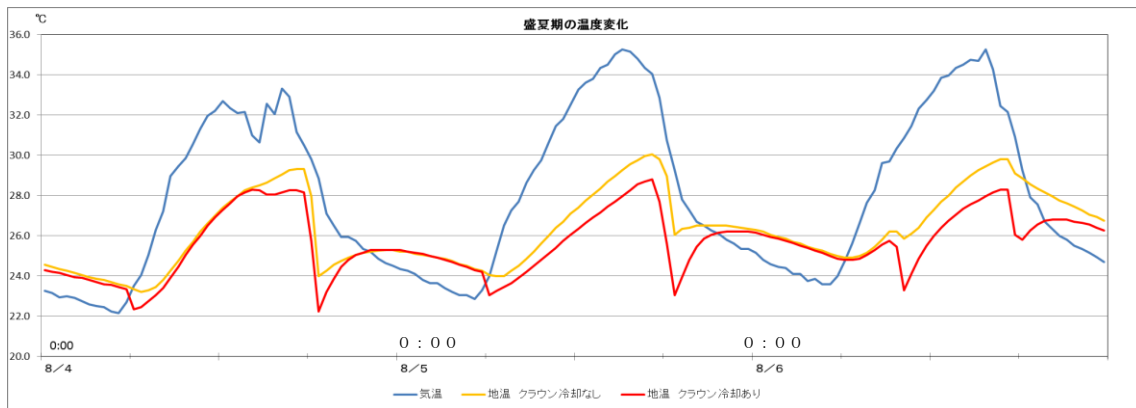


図2 盛夏期の温度変化

ハンモック式ベットでクラウン部冷却を行うことにより、培地温を下げる効果があり、花芽分化及び生育の促進につながると考えられた。〈図2〉

○ 今後の方向性

簡易高設栽培の培地及び施肥体系を再検討する。

実施機関： 塩谷南那須農業振興事務所経営普及部 実施場所： 那珂川町

問合せ先： 栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315